

争いの被害者は女性、子ども

島田 昌彦 (83歳)
(堺区市之町西)

(21年12月号の続き)

さて、私の具体的な戦争体験ですが、「堺では5回の空襲があった」とされていますが、私の記憶ではっきりしているのは2回です。もちろんいわゆる、空襲警報なるものは、昼夜を問わず鳴っていたように記憶しております。

夜間は灯火管制で裸電球に黒いシールドをかけ、常に母、2人の妹との4人が肩寄せ合って、まんじりともせず、過ごしました。ある夜、警報が鳴り、家の前に掘ってあった防空壕に逃げ込みました。その時、近所の人に「出島方面が火の海で、こちら(西湊1丁)にも火が回って来るかもしれないので、防空壕から出て逃げろ」と言われました。土居川をはさんで旅館町から北は火の手が上がり、南へ逃げるしかなかったようです。夜空にサーチライトが浮かび、シウルシウルという音が不気味に聞こえてきました。そのあと、必ず爆弾、焼夷弾が落ちてきました。(後で聞いた話ですが、自宅から100mのところで風向きが変わり、難を逃れました)

母は1944年に生まれた妹をおんぶして、1940年生まれの子の手を引き、私はリュックに水筒、玄米と大豆を炒った非常食の入ったお茶缶を入れて、夏布団を抱えて、どこへ逃げるあてもなく、何人かの後を追って逃げました。途中で男の人から、「白い布団は爆撃の目標になる」と怒鳴られて、捨ててしまいました。

達務さん(21年8月号の「私の戦争

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

寄稿 私の戦争体験 (47)

体験)と同じく、喜福紡績のレンガづくりの高い塀に沿って、先にも述べたように南方面に逃げました。気が付けば、畑の中を走っていました。いくつかの風車があるのを、物珍しく見ていたのを思い出します。海岸、砂浜にたどり着きました。石津というところでした。海辺からはるかかなたに、お城のような建物が燃えているのが見えました。離れているためか、「絵のよう綺麗」な感じでした。後で聞くところ、軍需工場でゴム製品の工場ということでした。夜が明けて、家に帰ってくるのができませんでした。幸いなことに、焼けずに残っていました。

記憶に残る2回目は、やはり夜間にサイレンが鳴り響きました。飛び起きましたが、母は起きようとしませんでした。「昌彦(私のこと)、もう逃げるのをやめよう」と言っていて、3人の子どもを抱きかかえて寝床の上に座っていました。「なんで逃げないのか」と言ったら、「もういいのや」と言っていて涙を流していました。母は94歳まで長生きしましたが、あの時なぜ逃げなかったのかを聞くことができませんでした。男親不在のなか、また戦地にいる夫の安否を気遣いつつ、女手一つで3人の子育てに疲れ果てたのではないだろうか。まともに食事らしいものはない、時には雑草を刈り取り、湯がいて、乾かし、粉にして団子を作り、食べていました。

今でいえば、適応障害、自立神経失調、不安症などの診断となるのではないだろうか。戦後、父親が復員してからも、ホツとしたのか、心身ともに疲れた症状は続きました。現在、世界中あらゆるところで争いは絶える間がありません。すべてのところで被害者は女性、子どもとなっています。

お楽しみクイズ クロスワードパズル

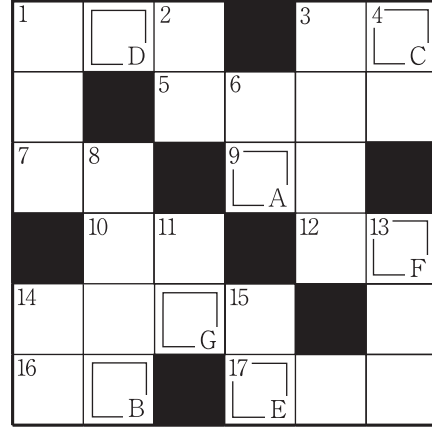
●応募方法/郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-12 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてに郵送か、FAX(072-244-7860)、下のQRコードで取得できるメール(tomo-kenkou@mimihara.or.jp)で。

●しめきり/2022年3月9日(水)消印有効

●当選発表/厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード500円分)を。賞品の発送をもって発表に替えさせていただきます。

●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



- タオル サバ
イ ツカ
シ カ
カ イ
ソ テ
ソ カ
- 12月号の答「オオミノカ(大晦日)」
●応募数/120通
●正解者数/120人

- ①クリスマスは大忙し
③道が多い街
⑤私市(大阪府交野市)。何と読む
⑦奈良公園の名物
- ⑧人気グループの——にシヨック
⑩お——参り
⑫水清ければ——棲ます
⑬方向——で迷子に
⑭顔に——を塗る
⑮——抜け、——砕け
- ①——作曲
②鯉の——登り
③万事——が馬
④負けるが——
⑥仙台名物、——かまぼこ
⑧人気が——にシヨック
⑩お——参り
⑫水清ければ——棲ます
⑬方向——で迷子に
⑭顔に——を塗る
⑮——抜け、——砕け

川柳

自己犠牲 ヤングケアラ 世が気付き
お出かけは 高齢社会 守る足
改憲よりも コロナ終息 殺される
枯葉舞う 諭吉さんなら 追っかける

堀西 和子
古賀 光政
堺谷九条男
宮本 真砂

俳句

新年も 公園の太極拳 古い元気
屋上に 独り占めする 冬夕焼
トナカイが アイヌ語と知った 師走かな

小田 順平
高野 純
林 研

短歌

岸田さん ミサイル基地の 攻撃より
コロナに打ち勝つ 戦術が先

上田 邦夫

私のおすすすめ!簡単レシピ

- ミニポン(目安時間20分)
- 〈材料〉
・卵……………4個
・ニラ……………1束
・ひき肉(なんでも)……………適量
……………200~300g
- ・細うどん……………1玉
・片栗粉……………適量
・粉末だし……………適量
・ポン酢……………適量



①ニラ、細うどんは細かく切る
②卵を溶き、ひき肉、ニラ、うどん、片栗粉、粉末だしを入れ、混ぜる
③フライパン、またはホットプレートでミニお好み焼き風に焼く
④ポン酢で食べる
*おすすすめポイント
小さめに焼きながら食べると楽しい。ニラがたくさん食べられます。

〈櫻井恵子さん(西区浜寺元町)のレシピ〉
簡単に美味しいレシピをご紹介します。
材料と作り方(3行程程度、写真(あれば)とおすすすめポイントを書いて送ってください。
採用者には、図書カード(500円)をお贈りします。

編集後記

この新聞が発行されるころ、世の中はどうなっているのか予測もできない。こんな事態でも、私たちのいのち・くらし脅かす施策は着々と進められている。活動の紹介とともに、そんな情報を提供できる「とも」でありたい。(明)